

都 退 教 協 だ よ り

No.317号

2024年2月21日発行

東京都退職教職員協議会 会長 谷口 滋

〒101-0003 千代田区一ツ橋 2-6-2 日本教育会館 2F 東京教組内

☎:03-5276-1311 FAX:03-5276-1312 Mail:totaikyokyo@tokyokyouso.org

4月から年金 2.7%アップ、 物価高騰には追い付かず！

1月19日、厚生労働省は、4月から年金支給額の2.7%引き上げと公表しました。

物価変動率は3.2%増でしたが、名目手取り賃金変動率が3.1%増だったので低いほう

で改訂されます。その上、マクロ経済スライドによる調整で0.4%減額され、今年の年金改訂率は2.7%増になりました。

物価高には到底追いつかない改訂です。

年金額の例

	2023年度 (月額)	2024年度 (月額)
国民年金 ^{※1} (老齢基礎年金(満額):1人分)	66,250円	68,000円 (+1,750円)
厚生年金 ^{※2} (夫婦2人分の老齢基礎年金を含む 標準的な年金額)	224,482円	230,483円 (+6,001円)

※1 1956年4月1日以前生まれの生まれの方の老齢基礎年金(満額1人分)は、月額67,808円(対前年度比+1,758円)です。

※2 平均的な収入(平均標準報酬(賞与含む月額換算)43.9万円)で40年間就業した場合に受け取り始める年金(老齢厚生年金と2人分の老齢基礎年金(満額))の給付水準です。

防衛費でも裏金づくりをする政府！

施政方針演説で岸田首相が「経済、経済、経済」と言うと、野次が「裏金、裏金、裏金」と合いの手を入れる。安倍派を中心に広がる自民党の巨額裏金犯罪には、政治資金規正法の抜本改正と国民の審判が不可欠なことは言う

までもない。

ところが、大幅な防衛費をねん出するために政府自ら「裏金」を作っている疑いがある。

そのからくりは、今年予算案で、国債の想定金利を1.1%から1.9%に引き上げ、国債を償

還するための利払い費を1兆円以上増やすというものだ。

日銀のゼロ金利政策が大きく変わらなければ、利払い費は決算剰余金になる。これまでも、決算剰余金を7千億円ほど見込んできたが、国債金利が上がらなければ1兆7600億円に跳

ね上がる。この決算剰余金を防衛費に充てるつもりなのだ。

増税や国債で防衛費をねん出することに世論の賛成が得られないので、こんな姑息な裏金作りをしているのです。許せません！是非、予算審議でも追及してほしい！

第5回 福島学習の旅

藤崎喜仁

2011年3月の東日本大震災と福島第一原発事故から12年が過ぎた。

11月5日～6日 日退教は福島県退教との共催で5回目の「福島学習の旅」を実施した。参加者は東北・関東・近畿・九州からの総勢15名。

一日目

レポートI 「学校現場から見える原発災害」

一日目の学習会は柴口正武さん(元浪江創成中教諭 前福島県教組双葉支部長)の報告で、震災から12年「学校現場から見える原発災害」でした。

《学校の現状》

双葉地方は6つの町(浪江・双葉・大熊・富岡・楡葉・広野)と2つの村(葛尾・川内)で構成され、震災前におよそ6397人いた児童生徒数は12年経った現在838人。かつての13%ほどの数である。

津波で校舎が倒壊した請戸小、放射線量が高く帰宅困難区域の津島小・中など、震災前にあった6つの小学校と3つの中学校を閉校にした浪江町は、「なみえ創成」小・中学校を開校した。また、義務教育学校(9年間同じ校舎で小・中の区切りがなく校長は1人)として授業再開となったのは大熊町と川内村だが、川内の児童生徒数は70人、大熊は5人である。

複数の小学校と中学校を統合して一つの校舎で授業再開したのが富岡町と楡葉町であ

る。

しかし、1学年1～2人が多く、児童生徒数の増加はどの町村も望めない状況である。

《避難先での孤立感》

柴口さんの実践報告は震災時から12年間の軌跡をたどっている。浪江町に自宅があった柴口さん一家は津波と原発事故で避難場所を転々とした。多くの避難住民も同様で、集団避難から個々の避難先の転居、仮設住宅の入居の決断や学校再開による避難先の問題。放射線管理区域の解除に伴う「戻る」「戻らない」の決断など様々な問題に翻弄された。

その間、住民同士のコミュニティーは、その場所に定住出来ないが故に、地域や個々人の距離感も埋まりにくく、孤立感を強めていく結果となった。

子ども達も同様である。故郷を追われ生活環境の激変と知らない土地への転校は、子ども達のからだや心を深く傷つけ、そこに残された子ども達にも、同様の虚しさや様々な心の傷を負わせることになった。

《極小規模校の実践報告》

そんな中での教育現場での課題は「極」小規模校での教育だった。双葉地区の多くの学校は「原発災害被災校」であり、極少数の中で行う「異常」な環境の中で目指す「通常」の教育のギャップをどう埋めていくのか。それが「ふるさと教育」だった。

柴口さんは震災4年目から「ふるさと創造学」のテーマで総合学習を進めてきた。当初

20名近くいた浪江育ちの子ども達もやがて1~2名になり、町外県外の子ども達に代わってきた。テーマも「ふるさと浪江」から「ふるさと・地域」そしてふるさとが消え「わがまち浪江」と変えてきた。

今この浪江で生きると云うことは、こども達にどんな意味を持つのか、震災と原発事故でふるさとを追われ避難先での生活から、また進学でこの地を離れることにもなる。これらを道徳の授業と総合学習を絡めて、異なった生育環境・生活環境を認め尊重しあってお互いの考えを共有する学習を進めてきた。ここに柴口さんの教育にかける真骨頂を感じた。

《困難に立ち向かう今》

学校再開に伴う様々な課題は、教職員にも及ぶ。子ども達や保護者へのケアも日常的に行いながら、教職員も離散した家族を抱え複数学校の兼務や50km~100kmに近い遠距離通勤など多くの困難を背負っていた。そんな中でも2011年6月末に双葉支部集会を開催し40名以上の参加があったのは大きな希望となった。いま柴口さんは退職し双葉支部の事務局長として、退教協ニュースで様々な情報を発信し400号を目指して奮闘している。

レポート II

「東日本大震災・原子力災害伝承館」

報告は福島県教育研究所 大槻研司さんの「東日本大震災・原子力災害伝承館」の展示内容とその変遷についてだった。この施設は2020年9/20に開館し、3階建て延べ床面積5200㎡で「福島双葉町の博物館・情報発信施設」である。私は7月に見学したとき、この施設は「見る人に何を訴えたい」のか、「メインとなる展示は何か」曖昧さを感じていた。この学習で見る視点を示唆してくれた報告はとても良かった。

《朝日が指摘する報道》

2020/9/21 朝日新聞は館長(長崎大教授高村昇)は「福島がどのように復興したかを伝えるのが大きな目的」とあいさつし、復興の

歩みに力点を置くのが特徴と指摘した。

問題点として

1 国や東電の事故の責任に対する展示・説明が少ない

① 津波対策の不備 ②メルトダウン隠し

② SPEEDI(放射能予測ネットワーク)の公表遅れ

④双葉病院で40人の患者らが避難先で死亡したことの説明がない

⑤国会事故調が原発事故を「人災」と結論したことの説明がない

2 損害賠償について ①7兆9千億円と想定 20年4月から電気料金に上乗せする

③ 廃炉処理費用の総額21.5兆円を電気料金に上乗せすること

④これが40年以上(80兆円の試算)も続くことは触れていない

《三度に及ぶ調査結果》

大槻さんが2020年9月から22年8月まで3回調査して改善されたこと ①展示エリア内で写真撮影が可能になった ②「安全神話の崩壊~対策を怠った人災」の事故調査委員会の引用文が展示された ③SPEEDIで活用意識低く、86通のメールのうち65通をそのまま削除した説明が加わる ④安定ヨウ素剤配布で原子力災害本部や県知事の指示がなかったから自治体の対応が分かれたことの説明文が加わる ⑤自主避難者の苦悩の説明文が加わる ⑥早送りの復興画像がゆっくりになった ⑦汚水処理(タンクに保管)映像が、単純な映像に変更された。この学習を受けて翌日の見学となった。

二日目

《大堀相馬焼の里見学》



「浪江大堀相馬焼の里」付近を見学。大堀地区には震災前20以上の窯元があったが、すべて町外へ強制避難

になる。帰宅困難区域に設定された今も、一部解除を除き立ち入り制限されている。窯元の「半谷(はんがい)窯」を見学した。大きな邸宅に人は誰も住んでいない。縁側に洗濯物が見える。あの日の12年前から誰も触れていない。ちょっと留守にしている感じだ。展示してある数多くの壺や皿、花瓶などの焼き物もそのままだ。

道沿いの釜小屋にも小さなぐい飲みや小皿など床に散乱し、棚には膨大な数の焼き物が残されていた。焼き物は放射線を出し続けていくのだろうか。廃墟と化した住まいや釜小屋や焼き物をみて虚しさを感じた。

《原子力災害伝承館の見学と展示内容》

1 プロローグ

館内に入ると巨大なスクリーンで映像を見せられる。西田敏行のナレーションで、原発建設が雇用創出と高度経済成長を支えたこと。震災や事故の様子、復興を目指す高校生の姿で5分間の映像が終わる。

2 災害の始まり

地震と津波、原発事故の複合災害で人々はどうのように行動したかの資料・証言・記録。「原子力明るい未来のエネルギー」の看板の写真や原発事故前の小学生の作文の紹介。「原発で地域が発展し生活が豊かになった」「人や自然に優しい発電所を願う」の内容など。

3 原子力発電所事故後の対応

写真パネルや避難者の証言映像の展示だが、広い場所の壁に説明パネルの展示や展示品コーナーもあるが訴えが弱い気がする。

4 県民への想い

① 災害時に感じた不安 ②楽しかった学校生活の突然の別れ ③家族や地域との別れ ④生活基盤の変化 将来への想い

被災者や避難者の映像は多くあるが、国や東電の責任を問うものは見つからない。

②の中で違和感を感じたのは「事故をきっかけにして、人生が良い方になって、やさしくなった」という檜葉北小教員の証

言。

5 長期化する原子力災害の影響 除染の説明映像や空間線量率の推移模型で放射線量が低くなったことを強調し、子どもや高齢者の目を引く展示に

6 復興への挑戦 大画面の画像で早送りして、復興が進んでいるとの印象を受けやすい「みらいのまち」の模型展示

7 海のテラスからは 広大な空き地が海まで広がり一望できる。取り壊されていない一軒家があり、豊かな生活をしていた街や集落があったことを忍ばせる

8 屋外には津波で壊れた赤い消防自動車と「原子力明るい未来のエネルギー」のパネル

大槻さんの感想にもあったが、広島市の平和資料館に比べると小中学生が興味関心を引きつける内容とは思えない。やはり「復興」に重点が置かれて、原発災害の多くの問題点が薄らいでいる気がした。

《震災遺構 浪江町立請戸小学校の見学》

海岸から300mの距離にある請戸小学校は、地震発生直後(15:56)から避難開始をした。

児童82人と教職員は1.5km先の大平山を目指した。遅れた校長教頭が合流(15:35)する。

その直後(15:38)に津波が校舎を襲い掛かる。津波が大平山に到着したのは、2分後の15時40分だったが全員無事避難できた。浪江町は学校を震災遺構として整備・保存し、後世に伝えるため2021年10月から一般公開を始めた。

津波に襲われた教室や保健室や放送室を見る。壁は崩れコンクリートがむき出し、天井からは蛍光灯がぶら下がり、床にはロッカーと物が散乱。鉄骨はへしまがっている。

倒れた校長室の大きな金庫や、給食室の大きな釜もそのまま見ることが出来る。

印刷室の壁や内部は当時のまま残してあり津波の脅威を感じる。

二階はわずか10cmしか浸水しなかった。

当時の状態が保存され明るさを感じる展示になっている。津波被害の航空映像や立ち入り解除になって卒業生らが黒板に書いたメッセージ、震災前の請戸地区の模型展示などもある。請戸小は第一原発からわずか5.7kmの距離しかなく、廃炉処理作業が教室からはっきりと見えた。

《車窓から見た福島復興とは》

- ① 小高～浪江 かつて黄色のセイタカアワダチソウが覆いつくしていた耕作放棄地は

稲刈りの後の田んぼが広がっていた。人が住める状態だが人は少なく、除染されても耕作する人は戻ってこないと云う。バスは浪江に向かう。進むにつれ、道な

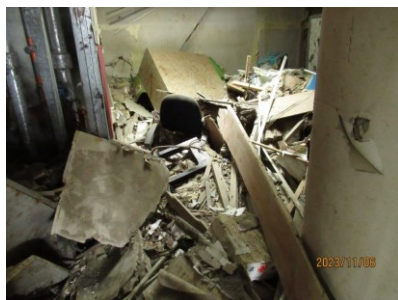


りに目につくのはソーラーパネルが延々と続くことだ。6年前はフレコンパックが、山のよ

うに積み上げられていた場所だ。実り豊かだった田畑は原発事故で緊急避難準備区域に指定され、人の立ち入ることが出来ない地域になった。解除後の田畑はスキ・セイタカアワダチソウで覆いされた。その後、除染土のフレコンパックが積み上げられ、今はソーラーパネルがそれに代わった。

- ② 室原地区 避難解除地域で除染が始まったばかり。耕作放棄地の田畑は除草されて

おり、これから除染作業が始まる予定だ。常磐道の両脇に続



いていたスキ・セイタカアワダチソウ

も無くなっていた。フレコンパックが大量に積み重ねられていた地域だったが、ソーラーパネルが延々と続く。あまりにも多くの太陽光パネルなので出力抑制され、蓄電も出来ないで電力は捨てられていると云う矛盾を抱えている

- ③ 葛尾村を通る 高線量だった地域で除染が始まったばかり
- ④ 浪江町津島に入る。役場津島支所とつしま活性化センターで下車し復興住宅を視察。10世帯あり真新しいが、入居者は3軒だけ。人の営みは始まっているものの復興と呼ぶには程遠い。廃校の津島小中学校は解体されず残っていた
- ⑤ 川俣町山木屋に向かう。解体されていない建物がそのまま残っており、線量から見ると住めるけどそれは住民の判断と云う。除染はされていない。高台に山木屋小中学校が見えた。休校中で2-3年後に解体される。住民の住んでいる家と廃墟の家、商店跡などが混在しておりやるせない気持ちになった。

《おわりに》

福島第一原発事故から12年が過ぎた。住み慣れた故郷に戻ることの出来た住民は少ない。

12年の年月はかつての故郷を激変させ、戻りたくても戻れない壁となっている。放射線量が未だに高く人の住めない地域は、廃屋と伸び放題の草木のままだ。

原子炉にあるデブリは推定800t。わずか1gしか取り出せていない。汚染水は海洋放出され、世界中の海を汚し続けている。廃炉処理も終わりが見えず、膨大な処理費は電気料金から強制的に徴収されている。

延々と続くソーラーパネルを見ながら「復興の意味する」課題の多さと困難さを思った。

会費・カンパを振り込んでいただき、ありがとうございます。

会費を納入して下さった方々（敬称略）

齊田充子、磯崎賢市、半田秀子、新井栄子

カンパして下さった方々（敬称略）

磯崎賢市

・ 2月16日現在

ひとこと

秋元恭夫 皆様と活動して参りました、秋元松彦は12月3日、永眠しました。

生前は大変お世話になりました。故人に替わり厚くお礼申し上げます。

教育現場労働者の職場環境と生活環境の向上に情熱を捧げ、日教組と旧社会党・総評を愛した88年の人生でした。永年、活動の拠点としていた杉並区桃井の杉教組事務所にほど近い病院で、最期を迎えました。組合活動のますますのご発展と、民主的勢力による政権交代を祈念し、年末のご報告とさせていただきます。（長男）

磯崎賢市 遅くなってすみません。来年は、高齢者が住みやすい年になってほしい。

ハ柳

パー券を買う国民がバカなのだ ガザをアウシュビッツにさせるな（中村光夫）

編集後記

- ☆ 「政治とカネ」の問題を自民党内の権力抗争にすり替えて生き残りを図ろうとする岸田首相。政治資金規正法の抜本改正なくして国民は納得しない。悪夢の自民党政権を終わらせるために、野党は、国会でも選挙でも団結するしかないだろう。
- ☆ 六本木の国立新美術館の目の前に「ニューサンノー米軍センター」があり、米軍の大型ヘリが降り立つ。都心のど真ん中に米軍の重要拠点が居座り、日米地位協定に関する合同委員会もそこで開催されている。そこが、土地規制法の注視区域に指定されようとしている。注視区域になると1km周辺の住民が監視されることになる。都退教協はいくつかの団体とともに港区長に住民の人権を守るよう要請文を出した。港区は、区民の基本的な人権を尊重するよう国に意見書を提出したとの回答があった。地域住民を守る地方自治体としての矜持を感じた。
- ☆ 能登半島地震の被災者に、都退教協としてカンパ会計から1万円の義援金を送りました。
- ☆ 2月14日に東京高退連の学習会「老いは脚から」（町田修一順天堂大学教授）の話聞いた。ややきつい運動を週に2回ほどするだけで健康寿命が飛躍的に伸びるそうです。早歩きと深めのスクワッドがいいようです。詳しく知りたい方は、「順大さくら筋活講座」で検索してください。
- ☆ アイヌ施策推進法見直しを求める署名にご協力ありがとうございました。全国で8万筆以上が集まりました。「ヘイトスピーチ・複合差別を許さない、アイヌ民族の先住権を認めろ」院内集会在3月28日（木）17:00から衆議院第2議員会館1階多目的室で開催されます。（チラシの場所が変更になっています。）
ふるってご参加ください。（谷口記）